

# パラオの海底、眠る艦船や零戦

ミクロネシアのパラオ共和国の海底には、太平洋戦争中に沈没した旧日本軍の艦船や軍用機などの残骸が、いまなお残っている。市川市の写真家でダイバーの田中正文さん(47)は5年かけて撮影し、記録写真集「パラオ 海底の英霊たち」(並木書房)として出版した。(福島 五夫)

## 市川の田中さん 写真集を出版

田中さんは、世界の海を旅し、サンゴ礁などいわゆる「癒やし」の風景を撮るのが仕事だった。転機は2002年5月に訪れた。パラオで海に潜り、横倒しや天地が逆さまになった艦船がいくつも沈んでいるのを目の当たりにした。

プロペラと垂直尾翼の先端だけがかるうじて見える零戦。なぎ倒されたマスト。上甲板にろずたかく積もった貝殻……。1944年8月30日と31日の2日間、米軍の

### 「平和と不戦の思い、新たに」

#### 5年かけ2万8000枚撮影

大空襲で50隻を超える艦船が沈んだとされる。

「断末魔の叫びが聞こえてくるようでした。周囲の美しい風景とは不釣り合いな痛ましい姿に胸を突かれました」と田中さんは言う。

それから、パラオ通いが始まった。9回訪れ、総潜水時間は延べ260時間にも達したという。撮りためた写真は2万8千カットに上る。

田中さんは「船名などが不明なものもかなりありますが、何とかして名前を調べて遺族をはじめゆかりの人たちに見てもらいたい」と語る。

去年6月に市川市で写真展「61年目のパラオ・海底の英霊たち」を、今年8月から4月に広島県呉市の「大和ミュージアム」で写真展「パラオ・海底に眠る証言者たち」をそれぞれ開いた。

企画の狙いについて、田中さんは「パラオの海の底に沈んだままいまだに日本に帰ることのできない戦没者を追悼し、戦争を考え、平和と不戦の思いを新たにしたい」と話す。

次は、国内では北海道、海外ではバブアニューギニアとソロモン諸島での撮影を考えている。

「沈没艦船などは太平洋戦争の歴史遺産としてきちんと検証し、残していくべきなのでは」



潜水服を着た田中正文さん「写真集『パラオ 海底の英霊たち』から撮影